

著書紹介

「神風（シンパラム）がわく韓国（くに）」（吉川良三著：白日社）

著者の吉川良三氏（JKIT 会長）が、1994 年からサムスン電子の常務として韓国に滞在した時の体験をもとに、韓国と日本の文化やビジネス慣習の違いをまとめた書であり、日韓間のビジネスに関わる人にとって、韓国の文化や日常を知る上で、参考になる指摘と考え、シリーズで要約をご紹介します。

<第1回>日本と韓国、ここが違う

1. ほめる韓国、叱る日本

- ・日本企業は「叱る文化」の中で、社員を教育
- ・韓国企業では、叱るだけでは人はついてこず、まず、「ほめる文化」

2. 話す韓国、聞く日本

- ・韓国人はどんな場合でも、自己の意見を堂々と話して、存在感を示す「話す文化」
- ・日本人は、よほどのことがないかぎり、自己主張を控える「聞く文化」

3. 自然まかせの韓国、管理したがる日本

- ・韓国は、街路樹なども自然に放置する「自然まかせの文化」、ビジネスにおいても目標やプロセスよりも結果重視
- ・日本は、庭木などを手入れする「自然を管理したがる文化」、ビジネスにおいても目標達成およびそのプロセスを重視

4. 見せたがる韓国、隠したがる日本

- ・韓国は、報告書などにおいても中身よりも見かけを重視する「見せたがる文化」
- ・日本は、形式よりも中身を大切にし、人にあまり見せたがらない「隠したがる文化」

5. 個の韓国、集団の日本

- ・韓国は、個人の利益を重視する「個の文化」
- ・日本は組織の協力的行動を重視する「集団の文化」

6. 現在重視の韓国、過去重視の日本

- ・韓国人は、目先のことに全力を集中し、ある程度目的を達成するとそれを捨てて、つぎの目的に向かう「現在重視の文化」
- ・日本人は、先祖代々引き継がれてきた匠の技、過去の経験を重視する「過去重視の文化」

7. ホンネが見える韓国、ホンネが見えない日本

- ・韓国人は、ホンネの部分に触れられると、内心が表にあらわれる「ホンネが見える文化」
- ・日本人は、相手を気遣い「ホンネを出さない文化」

8. 量が大事な韓国、質が大事な日本

- ・食堂における「つき出し」など量に価値を見出す「量重視の文化」
- ・質に価値を見出す「質重視の文化」

以上